

新型コロナウイルス抗原検査 (SARS-CoV2抗原検出定量) 受託開始のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記検査項目を新たに内検査実施を開始しますので、ご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいります。

今後とも、引き続きお引き立てのほど宜しく願い申し上げます。

謹白

記

検査開始日

令和 3年 7月 26日(月) 受付分より

受託可能日

月曜日～土曜日

新規項目

SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)抗原検出(定量)

※詳細は裏面をご参照下さい。

I N F O R M A T I O N

ご案内

Vol.21-0-001

検査内容	
診療行為名称	SARS-CoV-2抗原検出（定量）
区分等	区分番号 D 012-00 検査区分：免疫学的検査 レセプト電算コード：160224250
点数(実施料)	600点
検体材料	鼻咽頭ぬぐい液・鼻腔ぬぐい液 ※現在のところ「だ液」では検査できませんのでご注意ください。
検査方法	ECLIA 法
基準値	陰性：COI<1.0 陽性：COI≥1.0
報告日数	1～3日 ※14時までに医師会館ラボへ到着した検体は、当日中にFAXにてご報告いたします。 ※上記以降に提出いただいた検体は、翌日のご報告となりますのでご了承ください。 ※土曜日ご提出の検体に関しては月曜日の検査となります。
採取容器	専用容器および密封キット ※ご用命次第お持ちしますので事前にご用命下さい。
採取法	鼻咽頭または鼻腔に使用した綿棒を輸送培地（コパンUTM）に入れ、 綿棒の上部をポキッと折り、輸送培地の蓋を閉めます。 輸送培地の外側を消毒用のアルウェッティで拭いてください。
備考	(1) 提出容器は、蓋部分を必ず、パラフィルムでシールをしてください。 (2) 多項目との重複依頼は避けてください。
留意事項	(1) 本検査の測定値が検出感度未満であっても、SARS-CoV-2感染否定するものではありません。 診断においては、臨床症状含めて総合的に判断してください。 (2) 検体の取り扱い等については、厚生労働省より公表されている「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」最新版をご参照ください。 (3) 検体の返却はいたしません。 追加検査をご検討の場合は、予備検体の採取・保管をお願いいたします。 (4) 検体の梱包は採取セットに同封の説明書に基づいて行ってください。

胃がんリスク層別化検査

変更内容	新	旧
検査項目名	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	セルロースアセテート膜電気泳動法
検査方法	ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《LA》※1 LA(ラテックス凝集比濁法) (判定基準:4U/mL未満) ※ヘフシソゲンの検査試薬は変更なし	ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《EIA》 EIA (判定基準:3U/mL未満)
検体量	血清 0.6ml	同左
専用報告書	別掲の通り報告書の仕様(サイズ、デザインを変更致します。)	
備考	※1:ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《LA》は、「胃がんリスク層別化検査」専用検査です。 (測定試薬:Lタイプワコー H.ピロリ抗体・J/富士フイルム 和光純薬株式会社)	

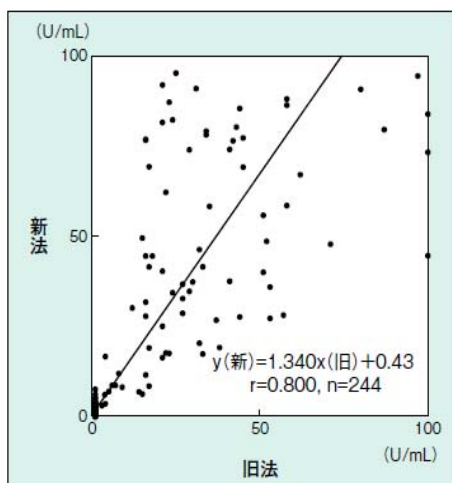
ABCDの新判定基準(新旧比較)

【新】				【旧】			
<i>H.pylori</i> 抗体法(LA)				<i>H.pylori</i> 抗体法(EIA)			
		(-) 4U/mL未満	(+) 4U/mL以上			(-) 3U/mL未満	(+) 3U/mL以上 10U/mL未満 10U/mL以上
PG法	(-)	A群	B群	PG法	(-)	A群	除菌する場合は必ず 存在診断を行うこと*
	(+)	D群	C群		(+)	D群	C群

*除菌する場合は、必ず他の*H.pylori*検査を実施し、ピロリ菌の存在診断を行って下さい。

※旧法では、3U/mL以上10U/mL未満でのB群は除菌する際には他法にてピロリ菌の存在診断を行う必要がありました。しかし、新法では4U/mL単独で判定できるため、追加の検査は必要ありません。

新旧二法の相関



判定一致率

		旧法		計
		陽性 (+)	陰性 (-)	
新法	陽性 (+)	77	5	82
	陰性 (-)	2	160	162
計		79	165	244

陽性一致率: 97.5% (77/79)
陰性一致率: 97.0% (160/165)
判定一致率: 97.1% (237/244)

(社内検討データ)

【表面】

胃がんリスク層別化検査

検体№

受診者名		種	年齢	性別
科名	診科	検日	年 月 日	日
前照機	検日ID	検日	年 月 日	日

A B C D 分類判定結果

*** あなたの胃の状態 ***

A 群 健康な胃 	B 群 少し弱った胃 	C 群 弱った胃 	D 群 かなり弱った胃 
---	---	---	--

コメント

A B C D 分類判定対象外

E 群 (除菌群)
ヘリコバクター・ピロリ除菌後の方は、E 群 (除菌群) として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

ペプシノゲン/ヘリコバクター・ピロリの判定結果

検査項目	判定	検査項目	判定	測定値
ペプシノゲン	判定中	ヘリコバクター・ピロリ抗体 (IgA)	判定中	陽性
		基準値		4U/mL未満

ペプシノゲン検査と判定

ペプシノゲン検査項目	測定値	判定	範囲
ペプシノゲン I	ng/mL	判定中	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
ペプシノゲン II	ng/mL	判定中	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
ペプシノゲン I / ペプシノゲン II 比		判定中	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
判定基準 (基準値)	ペプシノゲン I : 70ng/mL以下かつペプシノゲン I / II 比 : 3.0以下		

医療機関

検査実施施設

株式会社LSIメディエンス

インフォメーション
お客様窓口：(03)5984-0111

【裏面】

あなたの「胃の健康度」は 血液でチェックすることができます！

ペプシノゲン検査

+

ヘリコバクター・ピロリ抗体検査

	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
	陽性 (-)	陽性 (+)
ペプシノゲン検査	陽性 (-)	Aタイプ Bタイプ
	陽性 (+)	Dタイプ Cタイプ

※A B C Dタイプはペプシノゲン検査とヘリコバクター・ピロリ抗体検査の結果を組み合わせることで判定されます。

胃の検診で多く実施されているのはバリウムを飲んでから行うX線撮影で、フィルムに写った胃壁の凹凸から胃の状態を見る検査です。この方法とは別に、2種の血液検査を組み合わせることによって「胃の健康度」を調べることができます。


A タイプ

おむね健康的な胃粘膜で、胃の健康になる可能性は高いと考えられます。炎症性疾患などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。
※感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の原因がある方が含まれます。一部は内視鏡検査などの検査検査を受けることが理想的です。




B タイプ

少し弱った胃粘膜です。胃かきよう・十二指腸かきようなどに注意しましょう。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。




D タイプ

壁が非常に薄くなった胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてください。



C タイプ

壁の薄くなった胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。



E タイプ

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E 群 (除菌群) として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

E 群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

監修：一般財団法人胃癌協会健康センター 井上 和雄

*縮小して掲載しています。